

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	思いやりと笑顔を忘れず一緒に過ごします 一人一人の生き方を大切にします 地域の人達との交流に参加します との3つの事業所独自の理念をつくりあげている。	○ 今以上に利用者とのふれあいを大切にした運営理念を確立させたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各フロアのホールにて運営理念の 額を飾り、職員は毎日朗読し ている。	○ 今以上に理念の共有に取り組 んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームページを作成したり、家族に 手紙を出したりして理解してもら えよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	小動物や公園を作り、散歩に来た 近所の人がいっぱい立ち寄る よう整備されている。	○ 納涼祭や職場のイベントに 積極的に近所の人達を呼んだり して地域事業を活性化させたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	新聞などの地域のコンサートや 行事などに参加している	○ 近々地域の自治会(空き缶拾いや ゴミ拾いの行事に参加し、交流し ていくよう心掛けたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者のための話し合いなどは実施できていない	○	地域の高齢者のための話し合いの機会を持つようにしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を実施する意義については理解しているが、具体的な改善には届いていない。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		○	研修などに参加し権利擁護や成年後見制度について学ぶ機会を作りたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会はあるが参加は職員の自由である。	○	細かい話し合いはあまりないが、虐待はないと確信している。しかしなぜ、虐待が起こるのかなど学んでいきたいと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行い理解・納得を図っている。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月カンファを実施し、苦情などがあつた時は、そのことについて解決法を見つける。	○	耳職員に直接言うぐらいいしか機会がないので、もっと言いやすい解決法を考えたい。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームへ面会に来る家族はいないが個々の一部の利用者の家族に電話連絡の報告ができています。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会簿やご意見箱を設置して気軽に記入してもらう。	○	ご意見箱を用意したが、もっと意見を言いやすい状況を作りたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスやリーダー会議の機会を設け、職員同士積極的に話す機会を設けている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務の時間帯は各フロア2~3人は常に配備し、夜勤者、日勤者への申し送りの形もし、かり行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	配慮できている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間で研修やセミナー等の参加も個人や施設で促しながら行っている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年から他のグループホームや施設の見学へ行く。いろいろなお事を取り入れている。	○	今以上に他のグループホームや施設との見学会や話し合いの機会を設けお互いのスキルアップに繋げていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室で職員がゆっくり休める場所の確保		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各フロアについての職員は利用者に対して目的意識を持って働いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	可能な限り努力をしている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	可能な限り努力をしている。		
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限り努力をしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来る限り場の雰囲気に応じて馴染めるよう家族等と相談、話し合いをしながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支えあう関係を築けている。	○	空いている時間に利用者や話し、いろいろな事を聞きたく士人の事を学んでいる。学んではいるが、支え合うといった点は不足している気がするので、利用者と共に出来ることなども探してみたいと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	イベント事、日常生活を共にして共有する時間が多くなる	○	利用者の話しを聞き、一緒に笑い、学んだり、ケンカしえうなのをなだめたり、いい関係も今以上に築いていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族との関係がごく一部しか築けていない。	○	あいさつをするという当たり前の事は元来なりに出来てると思うが、より良い関係を築くには、もと家族との接解の場を作、ていきたいと思う。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が以前住んでいた際に持っていた家具や大事な所有物を居室に置くようにする。	○	東京からの利用者が多いため馴染みの場所に行くというのが、なかなか出来ないが、えらいう機会をもっと作ってほしい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一部の利用者同士の間に関わり合い、支え合えるように支援できている。	○	個人主義の利用者が多く、関わり合いを求めない傾向が強いので、積極的に利用者同士が仲良くなるように仲感したい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	一部のみ出来ている	○	退去してしまつた利用者の事は一切分からないので、新しい施設との関わり合いなども作って、教えてもらつたり出来たと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が望む事(買い物や散歩など)把握に努めている	○ 無理強いはせず、希望通りに対応は試みている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前生活していた馴染みある家具や物品なども居室に置き、落ち着いた生活を支援している	○ もう少し詳しいサマリーや生活歴の書類を把握できるようにしたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の月の心身状態などを経過表に記入したりして把握できている。	○ 利用者全員に対してではないが、把握できていると思うので今以上に取組んでいきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	業務連絡に個人の詳しい介護計画を作成し、カードや個人ファイルにも作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランを半年に1度作成し、個人情報の詳しい情報の作成もしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印刷 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人用の業務連絡ノートを作成し記入している。	○	気付いたことは記録に残し、職員同士の情報交換は出来ているのでより一層細かく記録に残せたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	柔軟な支援をしようとしているがまだできていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	イベントなどでボランティアと協力や消防機関(南消防署)と協力支援できている。	○	今以上に地域資源との協働を密にしていきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	支援できていない		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターと協働できていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>業務提携している双愛病院に、小松内科・長谷川歯科とかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>精神病棟がある宝和麗病院の医師と職員が相談でき、関係を築くことができ、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられる支援ができている。</p>	○	<p>認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援していきたい。</p>
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>週一回訪問看護士の定期的健康管理の実施</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>双愛病院、宝和麗病院の医師や病院関係者との情報交換や相談に努めており、協働ができている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>方針も共有できていない。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>まだ本格的な検討や準備も行っていない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを 防ぐことに努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	その利用者にあつた言葉かけや対応 は完全には出来ないが、個人テーブ ルを設置して距離をおき、プライバシー を守れている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよ うに支援をしている	本人の希望や意見があつた際はカー ドボックス欄に記入し、閲覧できる ようにしている。	○	自分の意見、答えを言えるように返事 も待つてあげたり、1人1人に合わせた 対応で、接してきたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そつて支援している	一部の利用者のみ、一人ひとりの ペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか希望にそつて 支援できている。	○	一人ひとりのペースに合わせて 希望にそつて支援できるように 努力していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	2ヶ月に1度納動理客室に来ても らい、個人の希望にそつた髪形に している。	○	今以上に身だしなみやおしゃれの 支援をできるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食べたい物や季節にあわせた献立を提供し、配膳下膳や片付けなども手伝ってあげる。	○	今以上に利用者の意見も募集して献立作成に役立てていきたい。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人の望む、飲み物、おやつ、たばこ等を把握し週に1度または、うげう提供して楽しめるよう支援している	○	限度はあるが、体に害のない程度に提供できているので引き続き行いたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中声かけをしたり、夜間帯るの人の排泄パターンも把握できるように支援している。	○	一人一人のADLに合わせて日中夜間帯のおむつの使用量を少しずつ減らしていきたい。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむ事は一部の利用者のみ実施できている。	○	今以上に職員の都合になってしまっているのを改善したい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は散歩や催し物を行い、夜間帯落ちて着いて眠れぬよう支援している。	○	居室にて日中横になっている利用者には無理強いない程度で散歩や催し物への参加の促し
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物やドライブ、レクリエーションを行い、気晴らしの支援ができている。	○	一部の利用者だけに留まっているので


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	↑ (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルにならないように記録・文書メモ書きして、納得いくように金銭の管理・使用を実施	○	紛失した時の不徳状態なども考え、あまり大きな金額は渡せていないので、少しずつ改善したい
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良い日は、散歩や買い物ドライブ等戸外へ出られる支援が行えている。	○	自立している人がメインで出ることが多いが、職員が余裕がある時は、普段出れない人も出れるように努力したい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お盆や正月、墓参りや神社へお参り等一部の利用者のみ実施できている。	○	まだ少ないが、そういう機会を作りたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望で自ら電話を掛けたりとできるよう支援できている	○	頻繁ではないが、電話したり、手紙を書いたり、職員の協力体制を今まで以上にしていきたい。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	食事入浴の時間は避けてもらうが基本的に訪問は自由である	○	いつでも家族の方が訪問しやすいようにフローを工夫していきたい。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに職員間で取り組みが出来ている。	○	身体拘束例の例を職員間できちんと理解し、工夫やポイントを考えていきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1F玄関のみセンサーを設置 出来ている。	○	1Fだけだ状鍵をかけずに対応 しているの、職員を常時3人程 おき、全フロアで鍵をかけないよう に取り組みたい。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホールにて最低1人は職員が 見守りをして利用者の様子を把握 するように支援できている	○	夜間は寝ているため、静かに 入ったりしてプライバシーを守るよ うに取り組みたい。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者一人ひとりに応じて 取り組みが出来ている。	○	出来ている人と、出来ていない人 がいるので少しずつ改善し ていきたい。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年に1~2回は防災訓連 を行い事故防止に取り組め ている。	○	全体的に考えたりはしているが 1人1人に対してまだ細かくは 取り組んでいないので勉強し ていきたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期的な応急手当の訓連を 行ったが、定期的に実施でき ていない。	○	年に最低1~2回は定期的に 救命講習を行うようにする。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	まだ地域の人々との密な 協力を得られていない。	○	二本から地域の人達とより一層 密着して行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者と家族との話し合いの機会を持つ時間がないため対応策を話し合えない。	○	家族との話し合いの機会も沢山もつように取り組みたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルや体温測定をおこなない顔色や体調の変化に早急に気付けるように心掛けしている。	○	上司にすぐ連絡し指示も仰いでいる。一人で判断しない。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルをチェックしある程度薬の用法・用量を確認に努めている。	○	職員間の薬の種類や成分も今以上に勉強して把握する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝10時の時には、少し温めた牛乳を飲んでもらい便秘解消に取り組んでいる。	○	お茶や乳製品の食事をもっと増やして便秘の解消に努めたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎日朝・夕食後は利用者個人に合わせて口腔ケアも支援している。	○	今以上に利用者が、口腔ケアの清潔保持に努められるようにしたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一部の利用者のみ水分量を確保できている。	○	利用者1人に対する水分量や栄養バランスも把握して支援してきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	消毒、サニタスター キッチンハイター(まな板の衛生管理 包丁) 年末にインフルエンザ予防接種	○	最低限のことは出来ていると思うが、もう少し対応を細かくしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	消毒、サニタスター キッチンハイター(まな板の衛生管理 包丁) など衛生管理はできている。	○	買い物も2日に1回行くようになって食事に関して管理ができてきていると思うので引き続き行いたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりは、植木や花などがあり、芝生横には、花壇もあり庭には、ウサギやヤギもいて、穏やかな感じがします。	○	道路から入ったとこにあるから分がずいぶん敷地が広いし、動物などもいて出入りしやすい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下はいつも照明をつけたままにして光がある生活の工夫	○	出来ている所と、出来ていない所があり季節感なども取り入れていきたいと思う。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人空間の場所をホールの一角に作り、一部の利用者は思い思いに過ごさせている。	○	少しずつ個人空間を作り始めているがまだまだあるので努力して取組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	し (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	利用者が以前生活していた時に使用 していた物品や、家具等を居室に置き 居心地よく過ごせるよう実施している	○	本人が欲しがっている小さな家具や 所有物を購入出来るよう支援 したい。
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	換気や窓を開けて、空気の入換えを 行い、温度調節は、本人の希望を尊重 しつつも、設定温度で快適に過 ごせるよう自己慮している。	○	換気をしたりしているが、温度感覚 が鈍いためか、冷暖房の調節が分 らなくなってしまう時があるみたい なので出来るように取り組みたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	残存能力を引き出し、本人のやる気 を出すように「待つ」という事を考慮 した援助	○	やはり構造上、自立した人のみに 生活しやすいようになり、障害 がある人は難しいので安全な環境 づくりに取り組んでいきたい。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	一部のみ出来ている。	○	わかる人、わからぬ人が混ざって生活 しているため、わかる人が参、りまう事 が多いので改善し取り組みたい。
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	花壇、プランター、バリアフリー などいろいろ工夫はしている。	○	プランターの周りも今以上に 活性化し、屋根も作、り たい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ② <u>少しずつ増えている</u> ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	①ほぼ全ての職員が ② <u>職員の2/3くらいが</u> ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ② <u>利用者の2/3くらいが</u> ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ② <u>家族等の2/3くらいが</u> ③ <u>家族等の1/3くらいが</u> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者が居室以外でゆったりと落ち着いて過ごせる個人スペースの確保・構築に各フロアのインテリアや飾りの点に取り組んでおり、グループホームを人ほほの3つの運営理念(思いやりと笑顔も忘れず一緒に過ごし一人一人の生き方を大切にします。地域の人達との交流に参加します)を通して職員間の利用者に対する思いやりやふれあいの絆の関係を大切にしながら生活を送っている点がアピールできる点です。